

飯待つ間

正岡子規

青空文庫

余は昔から朝飯を喰わぬ事にきめて居る故病人ながらも腹がへ
 って昼飯を待ちかねるのは毎日の事である。今日のはや午砲が鳴
 ったのにまだ飯が出来ぬ。枕もとには本も硯すずりも何も出て居らぬ。
 新聞の一枚も残つて居らぬ。仕方がないから蒲団ふとんに頬杖ほおづえついた
 ままぼんやりとして庭をながめて居る。

おとといの野分のわきのなごりか空は曇つて居る。十本ばかり並んだ
 鶏頭けいとうは風の害を受けたけれど今は起き直つて真赤な頭を揃えて
 居る。一本の雁来紅はげいとうは美しき葉を出して白い干し衣に映つて居
 る。大毛蓼おおけたでというものか馬鹿に丈が高くなつて薄赤い花は雁来
 紅の上にかぶさつて居る。

さつきこの庭へ三人の子供が来て一匹の子猫を追いまわしてつかまえて往つたが、彼らはまだその猫を持って遊んで居ると見えて垣の外に騒ぐ声が聞える。竹か何かで猫を打つのであるか猫はニヤーニヤーと細い悲しい声で鳴く。すると高ちゃんという子の声で「年ちゃんそんなに打つと化けるよ化けるよ」とやや氣遣きづかわしげにいう。今年五つになる年ちゃんという子は三人の中の一番年下であるが「なに化けるものか」と平氣にいつてまた強く打てば猫はニヤーニヤーといよいよ窮した声である。三人で暫しばらく何か言つて居たが、やがて年ちゃんという子の声で「高ちゃん高ちゃんそんなに打つと化けるよ」と心配そうに言つた。今度は六つになる高ちゃんという子が打つて居るのと見える。ややあつて皆々笑

った。年ちゃんという子が猫を抱きあげた様子で「猫は、猫は、猫は宜しゅうござい」と大きな声で呼びながらあちらへ往つてしまつた。

飯はまだ出来ぬ。

ちいさ

小さい黄な蝶はひらひらと飛んで来て干し衣の裾を廻つたが直ぐまた飛んで往て遠くにあるおしろいの花をちよつと吸うて終に萩のうしろに隠れた。

かごうずら

もら

籠の鶉もまだ昼飯を貰わないのでひもじいに見える頻りにがさがさと籠を搔いて居る。

台所では皿徳利などの物に触れる音が盛んにして居る。

見る物がなくなつて、空を見ると、黒雲と白雲と一面に丑寅

の方へずんずんと動いて行く。次第に黒雲が少くなつて白雲がふえて往く。少しは青い空の見えて来るのも嬉しかった。

例の三人の子供は復また我垣の外まで帰つて来た。今度はごみため箱の中へ猫を入れて苦しめて喜んで居る様子だ。やがて向いの家の妻君、即ち高ちゃんという子のおツかさんが出て来て「高ちゃん、猫をいじめるものじゃありません、いじめると夜化けて出ますよ、早く逃がしておやりなさい」と叱つた。すると高ちゃんと
いう子は少し泣き声になつて「猫をつかまえて来たのはあたいたいじゃない年ちゃんだよ」といいわけして居る。年ちゃんという子も
間が悪うて黙つて居るか暫く静かになつた。

かツと畳の上に日がさした。飯が来た。

子規子より「飯待つ間」の原稿送り来されたる同封中に猫の写生画二つあり。一は顔にして、一は尻高く頭低く丸くなりて臥しみるところなり。その画の周圍に次の如き文章あり。もとより一時の戯れ書きに過ぎざれど、「飯待つ間」と相照応して面白く覺えたれば爰こゝに載録す。写生画もまた子規子の画として面白けれど載すること能はざるは遺憾なり。

(虚子記)

猫の写生画

明治卅二年十月九日「飯待つ間」といふ原稿書きをへし処に、彼子猫はやうやくいたづら子の手を逃れたりとおぼしくゆうゆうと我家に上り我横に寐居る蒲団の上、丁度我腹のあたりに蹲うずくまりてよごれ乱れたる毛を嘗なめ始めたり。妹は如何思ひけん糸に小き球をつけてこれを猫の目の前にあちこちと振りつづけしかば、猫は舌を収めて首傾け一心に球を見つめ居る、そこを写生したるなり。しかるに僅に首だけ写しをはりし時、糸切れて球動かざりしかば疲れに疲れたる猫はそのまま身を蒲団の谷あひに横たへ顔を尻の処へ押しつけて寐入りぬ。その様尻高く頭低く寐苦しかるべき様なり。我はそを見下しながらに右の方の図を作る。写して正にをはる時妹再び来りて猫をつまみ出しぬ。なほ追へども去らず、再

又發此に病れし。猫は其子と云ふ。捕らぬ。其の病は。...

言ひかた。へき。猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...

猫。其。子。と。云。ふ。捕。ら。ぬ。其。の。病。は。...



明治廿二年十月九日 能住 阿

といふ原稿書きより一處は修正

猫はゆくゆくいたつら子の半を

逃れたりとたほしくゆらゆらと

我家に上り我横に窓屋の階園の

上丁度我頭の前たりに蹲りてふ

これ外にたふ毛を首の始りたり

...

...

...

...

び何やらにて大地に突き落としぬ。猫は庭の松の木に上りて枝の上
 に蹲りたるままいと平らなる顔にてこなたを見おこせたり。かく
 する間この猫一たびも鳴かざりき。

〔自筆稿『ホトトギス』第三卷第一号 明治32・10・10〕

青空文庫情報

底本：「飯待つ間」岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年3月18日第1刷発行

2001（平成13）年11月7日第10刷発行

底本の親本：「子規全集 第十二巻」講談社

1975（昭和50）年10月刊

初出：「ホトトギス 第三巻第一号」

1899（明治32）年10月10日

※底本では、表題の下に「子規」と記載されています。

入力：ゆうき

校正・・noriko saito

2010年5月19日作成

2012年5月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

飯待つ間

正岡子規

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>